



役場庁舎と町で唯一の行政担当者

2度目の Bangladesh 滞在となった私の現地での活動は地方行政（町役場レベル）にかかわるものだったため、今回のレポートでは、肝付町役場と Bangladesh の町役場の行政システムを比較してみたいと思います。

Bangladesh の町役場

- 中央政府から派遣された公務員が各分野のサービスを提供している（＝縦割り行政。2、3 町掛け持ちの担当者もいるため、いつも役場に人がいるとは限らないし、役場自体が開いていないこともある）。
- 税金を払う住民が少ない。国から割り振られた資金があっても、多くがひもつき。
- 町議会も不定期開催で、議決内容も基本的には人づてで伝わる。
- 情報はほぼ人づて。掲示板があっても更新されていない。

肝付町役場

- 地方公務員が税務、福祉、畜産、農業、保健、教育、産業、水産等さまざまな分野の課に分かれサービス提供をしている（各分野の担当者が必ずいる）。
- 税収入だけでも約 15 億円ある。
- 町議会が定期的に開催され、結果が住民に開示される。
- 行政の情報開示が広報紙やホームページでなされている。

こうした問題を少しでも解消するために、「まずは行政サービスを含む町役場の事業に関する会議を2カ月に1回開き、そしてその結果を関係者に知らせ、少しでも需要と供給のミスマッチを少なくさせ、行政の透明性を高めよう」とさまざまなワークショップで伝え

Bangladesh の町役場では、人員不足、縦割り行政による確かなサービス提供機能の低さ、地方自治体としての資金不足、さらには町役場による縦割り行政の調整機能の欠如（低さ）、そして、行政情報、町議会情報などが公開されないことによる「行政サービス不足」、「住民の需要と行政サービスのミスマッチ」や「行政の不透明性、説明責任が果たされない事に起因する行政へ不信感」といった問題が依然として一般的にあります。

前回の滞在期間中の町役場中心の活動に比べ、今回は JICA（国際協力機構）の専門家とともに行政省次官補や県知事、その他行政官など、今までかかわることのなかった方々と話したり、全国各地を飛び回ったり、国レベルでの話し合いに参加したりとさまざまな方向から同国の地方

とともに、郡役場、町役場に行き、その必要性、重要性を伝え、少しでも会議が開かれるように促す―それが、今回の滞在中の主な活動でした。

縦割り行政、そして日本に比べると、政治色の強い町役場が多い同国では、町役場に働きかけるのと同時に、県や中央政府からの命令がある方が全国的に会議普及をするときに効果的との判断があり、そのために微力ながらも10カ月活動しました。



田中啓子(たなかけいこ)
1983 年生まれ(池之園振興会)
2011 年 1 月から 2013 年 1 月まで Bangladesh 人民共和国にて隊員(村落開発普及員)として活動。
2013 年 6 月より Bangladesh 人民共和国にて隊員(プログラムオフィサー)として活動中。



次官補・県知事のワークショップにて

行政を見て、考え、活動することができました。これだけでは、まだ行政能力向上には不十分です、結果はすぐには表れないと思いますが、10カ月の活動が少しでも同国の未来に役に立てばと願っています。